

自分の考えを深め、適切に表現する力を育てる国語科指導の検討 ～言語活動（文種）に応じた指導と評価の充実を中心に～

藏内保明

九州女子大学 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2022年10月28日受付, 2022年12月9日受理)

要旨

教育現場は、学習指導要領の改訂の趣旨に即しながら、常に授業改善を目指していかなければならない。

私が学校長として平成23・24年度に在籍した北九州市立折尾西小学校では、平成20年3月に告示された学習指導要領の全面実施に際し、学校の教育目標や児童の実態、教育の今日的な課題を踏まえて設定した「自分の考えを深め、適切に表現する力を育てる国語科学習指導」の研究に取り組んだ。

その内容として、①年間指導計画、②言語活動の特質、③相互に考えを深めて適切に書くための手立て、④指導に生かす評価、の4つの着眼点に沿った実践研究を進めた。その結果、個々の学習状況をきめ細かく把握して個別の手立てを講じることにより、それぞれの着眼点に即した有効な手だてを見出すことができた。この研究において見出した手だては、平成29年3月に告示された学習指導要領において示された「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」にも資するものであると考える。

本研究の概要について高学年での実践例を中心に報告し、研究の成果と課題について再度考察する。

I 北九州市立折尾西小学校における研究の実際¹⁾

1 研究の目的

(1) 国語科教育の今日的な課題から

中央教育審議会答申（平成20年1月17日）では、教育内容に関する主な改善事項として、言語活動の充実を図ることが示された。

各教科等における言語活動の充実は、学習指導要領改訂において、重要な改善の視点である。平成23年度からの学習指導要領の全面実施を受け、さらなる指導の改善が必要となる。

国語科においては、言語の役割に応じて、基本的な国語の力を定着させ、発達の段階において記録、要約、説明、論述といった言語活動を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を育成することが求められる。また、国語科「書くこと」の領域では、取り上げる文種やその特質を明らかにして、児童が自分の考えや思いを膨らませながら書くように指導することが、児童の考える力を育む上で、非常に重要な課題²⁾とされている。

一方、改訂された学習指導要領の下で行われる学習評価について、平成22年3月に、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」がとりまとめられた。

目標に準拠した評価を着実に実施するためには、各教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要がある。そして、学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたというのは、どのような状態になっていることなのかが、具体的に想定されている必要がある。児童一人一人の学習の確実な定着を図るため、きめ細かな指導の充実や目標に照らしてその実現状況を評価することが重要であると考えた。

(2) 児童の実態から

本校では、平成21年度から国語科において、自分の考えを深め、適切に表現する力を育てることを研究テーマとして、「書くこと」の力の育成に取り組んできた。

その結果、書くことの力の向上が伺える。それは、平成23年度4月に実施した、第2学年～第5学年の学力学習状況調査の「書くこと」の結果にも表れている。また、第6学年については、全国学力・学習状況調査の「書くこと」の設問において、知識を問う問題、活用力を問う問題ともに、全体的に力の向上が見られた。そして、特に、活用する力については、大きくポイントの向上が見られた。

しかしながら、「全体的には個々の力の格差が大きい」「個別に見ると、個人内でどの観点も確実に身に付けているとは言えない」などの結果が見て取れた。書くことの表現過程に応じて、一人一人が確実な力を身に付けるようにすることが今後の課題だと考えた。

③ 研究の成果と課題から

前年度の研究の成果と課題を着眼に沿って示すと以下のとおりであった。

① 児童の生活や他教科等における学習とのつながりを考えた年間指導計画の作成

成果としては、各学年において、児童の生活や他教科等における学習とのつながりを考えて指導の充実を図ることができた。

課題としては、児童が身に付けた力を活用できるように見直し、さらに改善していく必要がある。

② 各学年で取り上げる文種の特質の明確化

成果としては、文種の特質を明確にして指導に当たることで、児童は、何の目的で、誰に向けて、どんな種類の文章で伝えるかを明確にして書くことができた。また、教師は、文種の特質に応じた指導の重点化を図ることができた。

課題としては、多様な文種に応じたり、学年間の系統性、継続性を考えたりした指導の工夫をすることが十分でなかった。

③ 書く目的・相手・価値などを十分に意識づけた単元づくりの工夫

成果としては、児童が書きたいという思いや願いを持続して自分で表現を探る中で書く力を身に付けていった。また、書いたことへの価値付けができるようになった。

課題としては、さらに児童の思いや願いを引き出し、価値ある単元づくりをしていくことが重要である。

④ 児童が自分の考えをもち、相互に考えを深めて適切に書くための手だて

成果としては、題材選定の段階、自分の考えをもたせる段階（取材・構成・推敲）および、交流の段階で、重点化した指導のポイントにより、学年に応じてカードやシート、付箋の活用、話し合いの活性化を工夫し、児童の思考を促し、表現活動に生かすことができた。

課題としては、個別の支援を要する児童について、途中、意欲の低下や表現活動の停滞などの状況が見られ、今後、事前に児童の学習状況を詳細に見取り、確実に指導に生かしていく必要を痛感した。また、相互交流では、話し合いの力が不十分であった。

以上のことから、平成23年度、次のように研究を推進していくこととした。

2 研究の内容

国語科「書くこと」領域の学習指導において、次の手だてをとれば、児童は自分の考えを深め、適切に表現する力を身に付けるであろうと考えた。

(1) 児童の生活や各教科等とのつながりを考えた年間指導計画の作成

(2) 各学年で取り上げる文種の特質の明確化と指導の工夫

(3) 児童が自分の考えをもち、相互に考えを深めて適切に書くための手だて

- ・児童が考えを深めて表現することができる単元づくりをする。
- ・重点化した指導内容に応じて、自分の考えを深めて適切に書くための手だてを取る。
- ・作品を読み合い、お互いのよさやよりよい表現を認め合い、次への意欲につなげる交流活動を設定する。

(4) 児童の学習状況をとらえ指導に生かす評価の工夫

3 研究の方法

(1) 児童の生活や各教科等の学習とのつながりを考えた年間指導計画を作成する。

児童の生活及び各教科等の学習との関連を見渡し、工夫をして指導の充実を目指す。今年度は、各教科等の新しい教育課程を見渡して必要な見直し・修正を加え、児童が身に付けた力が、さらに幅広く各教科等および実生活で確実に活用できるように、意図的、計画的な年間指導計画の充実を目指した。また、低・中・高の2学年のまとまりで見直しをもって指導できるような計画を立てて指導を進めることとした。【着眼1】

(2) 取り上げる文種の特質の明確化と特質を踏まえた指導の工夫をする。

単元で取り上げる文種の特質を明らかにし、経験したこと、観察したこと、よさを伝えるなどの書く内容に応じて、指導の重点化を図るとともに、各学年間の系統を踏まえ児童の書く力の実態に即した指導を進める。今年度は、まだ実践していない多様な文種に応じて、年間の中でどのように位置付けるかを工夫して指導する。【着眼2】

(3) 児童が自分の考えをもち、相互に考えを深めて適切に書くための以下の3点の手だてを取る。

①児童が自分の考えを深めて表現できるようにするために単元づくりの工夫をする。

②重点化した指導内容に応じて、自分の考えを深めて適切に書くための手だてを工夫する。

③お互いのよさやよりよい表現を認め合い次への意欲へつなげるために、作品を読み合い、交流する活動を設定する。【着眼3】

(4) 児童の学習状況をとらえ指導に生かす評価の工夫をする。

表現過程の節々で、きめ細かな指導の充実や児童一人一人の学習の確実な定着を図るため、目標に準拠して、児童の姿としてどのように実現されているかを見取り、次への指導に生かす。そのために、具体的な評価規準を想定し、評価一覧表、座席指導案の作成等の、指導と評価の一体化の工夫をする。【着眼4】

4 研究の実際（高学年・第6学年を中心に）

(1) 児童の生活や各教科等の学習とのつながりを考えた年間指導計画の作成【着眼1】

資料1は第6学年の年間指導計画の一部である。児童の言語生活、及び他教科等との関連を見渡し、指導の充実を図れるように、「各教科等との関連」「知識や技能（スキル）」の欄を設けた。また、全学年で言語活動を種類（文種）に分け、種類別の番号を打ち、活用の状況を把握できるようにし、系統性も見られるようにした。必要な加除修正を加え、さらに文種に応じ重点化した指導を目指した。

<資料1> 第6学年年間指導計画（一部抜粋）

月	教科書単元・特設単元	各教科等との関連	知識や技能（スキル）
	言語活動及び指導の重点	単元名（各教科等）及び言語活動	取り立て事項
10月	⑨ わたしにとっての平和を考えよう 《意見文》 「『平和』について考える」 「平和のとりでを築く」⑭ ・文章から筆者の考えを読み取り、自分の考えを深めて平和に対する自分の考えを書く。 重点（イ・ウ・カ） ・自分の考えを明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考える。 ・事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。 ・書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。	⑨ 「戦争から平和へ」（社会科） ・過去の戦争を振り返り、平和な世界にするための自分の考えを書く。③	・効果的な構成を考えて書く。 ・自分の考えを説得する材料や根拠を工夫する。
11月	⑩「私のあこがれの仕事」《調査報告文》 ・将来従事したい仕事について考えまとめた文章を書く。 重点（イ・ウ） ・事実と考えを区別して見出しを工夫して、文章全体を見通して組み立てる。	⑨ 「6年 ゆめ・みらいフォーラム」（総合的な学習の時間） ・自分の将来の夢について調べたことをもとに、夢の実現のために今すべきこと、大切なことについて意見交換をし意見をまとめる。⑤	・書く事柄を収集し整理し、構成の効果や効果的な表現を考えて書く。

第6学年の事例では、単元「わたしにとっての平和を考えよう」で身に付けた意見文の書き方を、社会科の単元「戦争から平和へ」の学習で生かしていくなどの工夫である。

それぞれの学年に応じて児童の生活や各教科等の学習とのつながりを考えて計画，実施する。また，計画の段階で，学年間のつながりをもたせるために学年の系統性も意識して，計画，修正，実施した。

(2) 各学年で取り上げる言語活動（文種）の特質の明確化【着眼2】

資料2・3は，第5・6学年で本年度取り上げた文種の一覧と，重点化した指導内容を表した表である。

<資料2> 言語活動別指導のポイント・5年

	事例1 活動報告文<6月>	事例2 意見文<9月>	事例3 意見文<10月>
単元	活動を報告する文章を書こう	グラフや表を引用して書こう	図書館改造の提案書を書いて，アイデアを伝えよう
重点化した内容	①自分の考えが明確になるように，活動を報告する文章に必要な構成を考えて組み立てる。(構成) ②自分の考えが伝わるように，端的に記述する部分と，詳しく記述する部分とを区別して書く。(記述)	①目的や意図に応じて収集し，全体を見通して整理するとともに，引用したり図表やグラフを用いたりするなど，書き方を工夫して，自分の考えが伝わるように書く。(構成) ②書いたものを発表し合い，表現の仕方に着目して助言し合う。(相互交流)	①実態の調査やほかの事例をもとに，改造のアイデアをもつことができる。(取材) ②目的に応じて収集した事柄を，全体を見通して整理し，自分の考えを明確にするため，文章全体の構成の効果，表現の効果などを考えて書く。(構成)
ポイント	①広く事柄を集め明確な根拠や事例を選ぶことができるようにするための取材カードおよび相互交流の設定(構成) ②端的に書いたり詳しく書いたりするためのサンプル文の活用(記述)	①自分の立場を決めて伝えたいことの中心を明確にするためのサンプル文や取材カードの活用(構成) ②表現の仕方に着目して，よさを認め合う相互交流の設定	①事柄を集め明確な根拠や事例を選ぶことができるようにするための取材カードの活用(取材) ②提案書の構成を考えるためのサンプル文や組み立てモデルの活用(交流)

<資料3> 言語活動別指導のポイント・6年

	事例1 推薦文<6月>	事例2 意見文<10月>	事例3 調査報告文<12月>
単元	おすすめの本の推薦文を書こう	わたしにとっての平和について考えよう ～平和についての考えを意見文に書こう～	6の1「私のあこがれの仕事」 ～調べて考えたことを書きまとめよう～
重点化した内容	①自分の読んだ本の中で，友達にぜひ薦めたいと思うよさを，確かな根拠をもって選んだり，他と比較してのよさをとらえる。(取材)(構成) ②相手に本のよさが伝わるように，複数の根拠や事例を挙げたり，よさを表すのにふさわしい(推薦するための)語句を使ったりしながら，推薦する文章を書く。(記述)	①自分の平和についての考えを明確に伝えるために，文章全体の構成の効果を考える。(構成) ②表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。(記述・推敲) ③書いたものを発表し合い，表現の仕方に着目して助言し合う。(交流)	①題材に関する情報を集めて自分の考えを明らかにしたり，考えを支える根拠となる事柄を集め，小見出しを立てながら整理したりしている。(取材) ②自分の考えを明確に伝えるため，文章全体の構成の効果を考えた集めた事柄を組み立てている。(構成)
指導のポイント	①幅広く事柄を集め明確な根拠や事例を選ぶことができるようにするための取材カードの活用および相互交流の設定(取材) ②推薦するための効果的な表現で記述するためのサンプル集の活用(記述)	①妥当な根拠を選び，文章全体の構成の効果を考えた組み立てるための構成シートの活用(構成) ②表現の効果などについて確かめ，見直すためのサンプル文および相互交流の設定(記述・推敲) ③お互いの文章のよさや改善点を確かめ，よりよい表現に高めるための交流の設定(交流)	①価値ある題材を選び確かめるための題材選定カードの活用(取材) ②調べた事柄を整理し，自分の考えを明確にするための取材カードの活用(構成)

第5学年と第6学年の比較で分かるように，同じ文種でも，学年の違い，相手・目的・価値などのもたせ方も異なり，それを受けて重点化する内容も違ってくる。教師が指導の重点を明確にして指導に当たったこ

とで、児童にも自分で考えて表現していく力の向上が見られた。

また、全学年で表にして教師の共通理解を深めることで、当該の学年でどのような力をどのように身に付けるようにしていくかがさらに明確にできた。

(3) 児童の学習状況をとらえ指導に生かす評価の工夫をする。【着眼4】

資料4は、単元の評価一覧表である。評価一覧表には、評価規準を基に判断したA・B・C・の状況を書き、観点を設定した見取りを書けるようにした。また、「アドバイス」「確かめ」などの事前に計画した支援を書き込むようにし、次への指導に生かしていった。また、座席指導案については、単位時間の指導に当たって、前時までの状況を把握して記入するようにし、本時に行う指導・支援の計画を書き込んで指導に当たれるように工夫した。なお、個々や全体の児童の力の向上を数値として表し分析するために、各学年の評価の観点を設定し、年間の伸びを把握した。(詳細は別添資料II参照)

<資料4> 単元の評価一覧表

		第1次1時	第1次2時	第2次1時	第2次2時
4月調査時の書く力		目的・相手・方法意識を明確にし、書く価値を確かめている。	推薦文の書き方を確かめ価値ある本(題材)を選び意欲を高めている。	自分の考えを明確にし、おすすめするよさを考えて複数の根拠を集めている。	自分の考えを明確にして、書くことがらを整理し、書き出し・結びを書いている。
25	B 書く意欲◎ 取材◎ 整理構成○ 記述○ 推敲○ 交流	B 戦争のことが気になる人へ	B 題材の価値◎ 書く意欲◎	B 自分の考え△ おすすめするよさ○ 複数の根拠○	B 書く事柄の整理○ 書き出し・結び○
26	B 書く意欲○ 取材○ 整理構成○ 記述○ 推敲○	B いろいろなことをがんばりたい人へ	B 題材の価値◎ 書く意欲◎	B 自分の考え○ おすすめするよさ○ 複数の根拠○	B 書く事柄の整理○ 書き出し・結び○
		アドバイス		作業が遅れたのでアドバイス	

(4) 具体的な実践事例

- ① 単元名 「おすすめの本の推薦文を書こう」
- ② 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	○ 多面的に見たり、他と比較したりしながら、推薦するにふさわしいものであることを確かめた上で、そのよさがより多くの人に伝わるように推薦文を書こうとしている。
書く能力	◎ 自分が多くの人にぜひ薦めたいと思う事物のよさを、確かな根拠をもって選んだり、他と比較してのよさをとらえたりすることができる。 ◎ 相手によさが伝わるように、複数の根拠や事例を挙げたり、よさを表すのにふさわしい推薦するための語句を使ったりしながら、事物を推薦する文章を書くことができる。
言語についての知識・理解・技能	◎ 文章にはいろいろな構成があることについて理解し、目的に合った構成を選んで書くことができる。

③ 評価規準

国語への関心・意欲・態度	○ 多くの本を比較して、選んだ本が推薦するのにふさわしいものであることを確かめた上で、そのよさがより多くの人に伝わるように推薦文を書こうとしている。
書く能力	◎ 自分が読んだ本の中で、友達にぜひ薦めたいと思うよさを、確かな根拠をもって選んだり、他と比較してのよさをとらえたりしている。 ◎ 相手に本のよさが伝わるように、複数の根拠や事例を挙げたり、よさを表すのにふさわしい推薦するための語句を使ったりしながら、本を推薦する文章を書いている。
言語についての知識・理解・技能	◎ 文章にはいろいろな構成があることについて理解し、目的に合った構成を選んで書いている。

④ 指導計画

学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
<p>1 読書カードや読書日記を見て、自分たちが読んだ本について話し合い、本単元「おすすめの本の推薦文を書こう」を設定し、学習計画を立てる。②</p> <p>(1) 読んだ本について友達と話し合いをする中で、読書のよさを確かめ、本の推薦文を書く学習の計画を立てる。</p> <p>(2) 教材のサンプル文をもとに、推薦文の特質や書き方を話し合い、薦める本と伝えたいことを中心に決める。</p> <p>2 取材カードに必要な事柄を集め、整理して文章を組み立てる。③</p> <p>(1) 読書日記をもとに、感動したこと・生き方を考えたこと・ためになったこと・作者のシリーズなどの観点で幅広くお薦めするよさを考え集める。</p> <p>(2) 自分の考えを明確にして、書き出し・結びを書く。</p> <p>(3) 自分の考えを伝えるための確かな根拠や事例を選び、文章を効果的に組み立てる。</p>	<p>○自分たちの読書を振り返り、友達におすすめの本の推薦文を書き読み合うことについて話し合い、学習の計画を立てるようにする。</p> <p>○推薦文は【薦めるよさ・根拠となる事柄・自分の考え・お薦めの言葉】などで構成されていることを確かめ、根拠には様々な要素があることを話し合うようにする。</p> <p>○取材カードに、自分で観点を決めて、お薦めできると考える事柄を多数挙げてみるようにする。</p> <p>○事柄を見渡して、自分の考えを明確にし、書き出し・結びをカードに書いて、組み立て表に貼るようにする。</p> <p>○サンプル文をもとに、自分の考えを支える適切な根拠について話し合うようにする。</p> <p>○自分で考えて選んだ後、相互に説明し見合って、アドバイスをし合うようにする。</p>	<p>〔関〕目的・相手・方法意識を明確にし、書く価値を確かめ自分の考えを深めて、読書生活の向上を目指そうとしている。 (発表の様子を観察)</p> <p>〔書イ〕推薦文の書き方を確かめ、価値ある題材を選び意欲を高めている。 (題材選定カードの状況)</p> <p>〔書イ〕自分の考えを明確にし、お薦めするよさを考えて複数の根拠を集めている。 (取材カードへの記述の状況)</p> <p>〔書イ〕自分の考えを明確にして、書き出し・結びを書いている。 (記述カードへの記述の状況)</p> <p>〔書ウ〕相手に本のよさが伝わるように、複数の根拠や事例を選んでいる。 (組立て表の組立て状況)</p>
<p>3 相手に本のよさが伝わるように、ふさわしい（推薦するための）語句を使って記述する。②</p> <p>(1) よさが伝わるように工夫して下書きをし推敲する。</p> <p>(2) 表記に気を付けて清書する。</p> <p>4 完成した推薦文を読み合い、交流し合ってよさを見付け合い、学習のまとめをする。②</p> <p>(1) 推薦文を読み合い、友達の推薦文のよいところを見付け合う。</p> <p>(2) 本単元を振り返り、これからの読書について思うことを出し合い学習をまとめる。</p>	<p>○サンプル集の中の語句をもとに考えて、推薦するためにふさわしい語句や表現で書くようにする。</p> <p>○表記に気を付けて、正確に書くようにし、書いた文章は展示用にパウチをしカードにするようにする。</p> <p>○自他の学習の成果を確かめることができるようにする。</p> <p>○今後の読書への意欲化を図るようにする。</p>	<p>〔書ウ〕よさを表すのにふさわしい語句を使い、自分らしい推薦文を書いている。 (推薦文の記述の状況)</p> <p>〔言〕目的に合った構成で文章を書いている。 (推薦文の構成の状況)</p> <p>〔関〕自分や友達の推薦文のよさを確かめ、今後に役立てようとしている。 (発言内容、ノートの記述の状況)</p>

⑤ 指導の実際

ア 児童が自分の考えを深めて表現することができる単元づくりの工夫【着眼3-①】

児童が「書きたい」という思いや願いをもち、自ら考えを深めて書く力を身に付けていくようにするために、以下の手だてを取った。

- ・自分の読書の足跡を残すための読書記録や読書日記の継続的な記録の記述
- ・読書に親しむ環境づくりのための紹介ポスター・ポップなどの作成

その中で、自分の読んだ本を友達にも読んでもらいたいという思いが高まったところで、友達に本の推薦文を書く国語科の単元を設定した。目指す価値としては、多くの友達に本のよさを推薦し合うことで、さらに各自の読書の幅を広げて、よりよい読書生活を送ろうという思いを高めることである。

また、書いた文章が多くの友達の目に触れ参考にされる「よさ」を確かめ、達成感をもち次への意欲につなげることができるようにするために、書き上げた推薦文をカードにし、「おすすめの本 カードつづり」の束にして図書室に展示するようにし、読んだ友達の感想を感想欄に書いてもらうようにした。

イ 自分の考えを深めて適切に書くための手だての工夫【着眼3-②】

○ 価値ある題材を選ぶための読書日記の記述（1次1時）

自分の読んだ本の中から、友達に薦める価値のある本を選んだり、他の本と比較してよさをとらえたりすることができるようにするために、読書日記に、読んだ本の「印象に残ったこと」や、「感動したこと」などを記録する活動を設定した。また、幅広いジャンルの中から本を選ぶために、読書日記の中に読んだ本のジャンルを記入するようにし、その後、題材（伝えたいこと）を決めるようにした。

資料5は、S児の読書日記である。S児は、多数の本の中から、「シャドウ・ゴールドの秘密1」の本を推薦することに決めている。

<資料5> S児の読書日記

環境（場面設定など）について		登場人物について		読んだ後の印象・感想のメモ	著者名 ロブ・キッド	書名 シャドウ・ゴールドの秘密1	出版社 講談社	☆ 読書日記 ☆	六年一組 十二さいの言葉を残そう
カリブ海で冒険をしてる。		ヘクター、バルボサ、ブレイク、ロロの一等航海士、ニア、ダルマ 超能力を持つ女魔術師							
作者について		事件・出来事について		何者かに呪いをかけられてしまった、シヤドウ・ゴールドは、彼の呪いをとく秘薬ミッドウ・ゴールドを求めて七つの海をめぐる冒険の旅へ！					

○ 幅広く事柄を集め明確な根拠や事例を選ぶことができるようになるための取材カードの活用（2次1時）

薦める本のよさを、根拠をもって選んだり自分の薦めるよさが伝わる複数の根拠や事例を挙げたりすることができるようにするために、観点をもってよさを集めることができる取材カードの活用をした。

資料6はS児の取材カードである。

○ 推薦にふさわしい効果的な表現で記述するためのサンプル集の活用（3次1時）

よさを表すのにふさわしい語句を使って、推薦する文章を書くことができるようにするために、書店の本の紹介ポスターやポップなどのサンプル集からふさわしい言葉を集め、それらを参考にして適切に記述する活動を設定した。

S児は、3枚の付箋をはり、「冒険します」を「冒険の旅に出発します」に、「みなさん海賊を知っていますか」を「みなさん海賊というとな何を思い浮かべますか」に、「急なげがあっても」を「目の前に登れないような急なげがあっても」に修正するなどの部分で、読み手の興味・関心を考えた表現に高めていった。

ウ 作品を読み合い、お互いのよさやよりよい表現を認め合い、次への意欲へつなげる交流活動の工夫

【着眼3-③】

お互いの作品を読み合い、おすすめカードを活用して推薦文のよさを認め合う交流の活動を設定した。おすすめカードには、児童と話し合った推薦文のよさの4観点を示した。資料8はその4観点である。

<資料8> 推せん文としてのよさ（4観点）

- ・本のよさについての自分の考えがはっきりしている。
- ・それぞれの根拠が自分の考えに合っていて分かりやすい。
- ・おすすめするための効果的な表現がある。
- ・自分の考えを伝えるための構成の工夫をしている。

資料9は、S児のおすすめカードである。グループの友達の文章に対して、観点に従って、よさを見つけている。その後の話し合いでお互いの発見を交流することで、広く自他の文章のよさを確かめ認めることができたのである。

<資料9> S児のおすすめカード

名前 氏名(シラビ)	おすすめポイント
ライオン動物記 (4)	① おすすめの本についての考えが、しっかりしている。 ② おすすめするための効果的な表現が、たくさん使われている。
冒険者たち (9)	① おすすめの本の良いところが、たくさん書かれている。 ② それぞれの根拠が、しっかりしててとても分かりやすい。 ③ 分かりやすいような言葉だけを、はなはなと、もじこといって言葉をつけていることが効果的な表現で良いと思えた。 ④ 自分の考えを伝えるための構成が工夫してある。
戦国武将大百科 (2)	① 「本のよさ」についての自分の考えが、はっきりしている。 ② それぞれの根拠が自分の考えに合っていて分かりやすい。 ③ おすすめするための効果的な表現がある。 ④ 自分の考えを伝えるための構成を工夫している。

○今日の学習の振り返り感想
今日は、班の人や他の班の人の推せん文を、読んでみんな良い表現や構成の工夫をたくさんしているなと思いました。

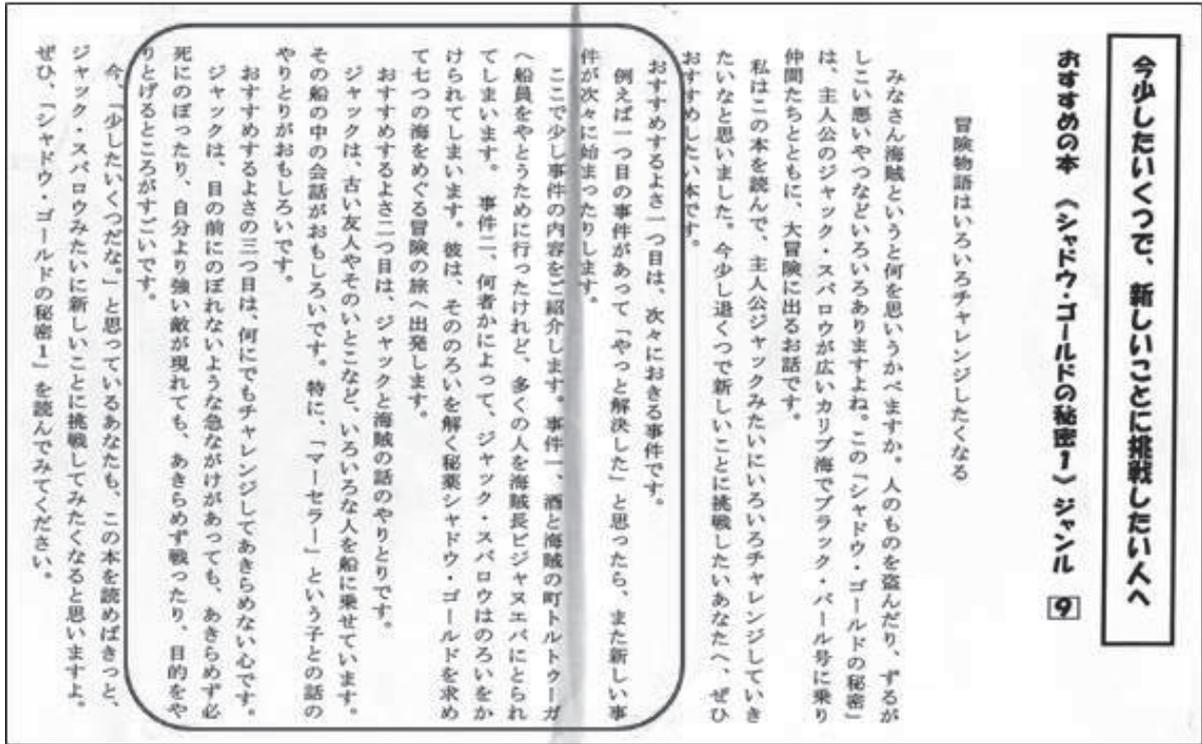
「推せん文大賞」おすすめカード ()

○わたしたちの最も読みたくなる推せん文を選びましょう。

⑥ S児の変容

「⑤指導の実際 イ・ウ」で主に取り上げたS児は、この単元の学習に入る前までは、自分の考えを明確にし、構成の効果を意識して書くようにはなっていた。しかしながら、自分の考えを明確に表現するために適切な根拠や事例を挙げて、構成や表現の効果を工夫することはまだ不十分であった。

<資料10> S 児の推薦文



資料10は、S 児の書き上げた推薦文である。赤枠は、自分の考え（薦めたい考えの中心）である。この文章に見られるように、根拠や事例を適切に選び、効果的な表現を工夫して書くことができた。

資料11は、本単元の評価一覧表である。

<資料11> 毎時間の評価一覧表

		第1次1時	第2次1時	第2次2時	第2次3時	よ句を
4月調査時の書く力		目的・相手・方法意識を明確にし、書く価値を確かめている。	自分の考えを明確にし、おすすめするよさを考えて複数の根拠を集めている。	自分の考えを明確にして、書くことがらを整理し、書き出し・結びを書いている。	相手に本のよさが伝わるように、複数の根拠や事例を選び、文章を組み立てている。	
M 児	B 書く意欲◎ 取材○ 整理構成○ 記述○ 推敲○ 交流○	B 恋愛と冒険が好きな人へ	B 自分の考え○ おすすめのよさ△ 複数の根拠○	B 書く事柄の整理 ○ 書き出し・結び ○	B 適切な複数の根拠 ○ 効果的な組み立て ○	
S 児	B 書く意欲◎ 取材○ 整理構成○ 記述○ 推敲○ 交流○	A バンダ公園にありの行列があって長くてすごかったこと	B 自分の考え ◎ おすすめのよさ ○ 複数の根拠 ○	B 書く事柄の整理 ○ 書き出し・結び ◎	B 適切な複数の根拠 ◎ 効果的な組み立て ○	
K 児	B 書く意欲○ 取材○ 整理構成○ 記述○ 推敲△ 交流△	B 歴史上の戦いに興味がある人へ	C 自分の考え おすすめのよさ 複数の根拠	C 書く事柄の整理 △ 書き出し・結び △	B 適切な複数の根拠 ○ 効果的な組み立て ○	
		アドバイス		アドバイス		
Y 児	B 書く意欲◎ 取材○ 整理構成○ 記述○ 推敲○ 交流○	A わくわくするミステリーの好きな人へ	B 自分の考え ◎ おすすめのよさ ◎ 複数の根拠 ○	A 書く事柄の整理 ◎ 書き出し・結び ◎	A 適切な複数の根拠 ◎ 効果的な組み立て ◎	
H 児	B 書く意欲◎ 取材○ 整理構成○ 記述○ 推敲○ 交流○	B 落ち込んでいて元気になりたい人へ	B 自分の考え ○ おすすめのよさ ○ 適切な複数の根拠○	B 書く事柄の整理 ○ 書き出し・結び ○	B 適切な複数の根拠 ○ 効果的な組み立て ○	
		アドバイス		アドバイス		
		書く意欲◎ 取材○		自分の考え ◎		

第2次2時のS 児の状況は、まだ、根拠を確定できず迷っていた。本時（第2次3時）では、相互交流の友達のアドバイスを聞き根拠を明確にすることができた。書き上げた文章の記述内容のよさの根拠が明確なところと、読み手の意欲を喚起するおすすめする語句「今少したいくつで新しいことに挑戦したいあなたへ、ぜひおすすめしたい」の部分からおおむね満足できる状況、(B)と判断した。

5 児童の変容

(1) 高学年の児童の変容

資料12は、第5学年と第6学年児童の「各評価の観点別状況」（6月から12月の伸び）である。

<資料12> 各評価の観点別状況（6月から12月の伸び）

評価の観点	5年の伸び	6年の伸び
①相手・目的・場面に関する意識	0.09	0.09
②題材の限定	0.08	0.18
③書くための材料集め	0.06	0.12
④テーマに合う材料選び	0.07	0.17
⑤段落の役割	0.06	0.14
⑥段落相互の関係	0.15	0.15
⑦自分の考えを明確にするための構成	0.09	0.11
⑧一つ一つの段落の記述	0.21	0.09
⑨段落と段落のつながりの明確さ	0.07	0.13
⑩事実と感想、意見の書き分け	0.15	0.10
⑪簡単に書いたり詳しく書いたりする	0.10	0.11
⑫引用、図表、グラフなどの活用	0.20	0.11
⑬文章の間違いを探すこと	0.03	0.07
⑭文章のよさを見つけること	0.10	0.12
⑮自分の考えが伝わったか振り返る	0.14	0.20
⑯書く目的や意図に応じた助言	0.00	0.28
⑰表現の仕方のよさを感じた助言	0.17	0.22
<3…十分目標を達成できている 2…概ね目標を達成できている 1…努力を要する>		

① 第5学年

総合的にどの項目も向上が見られた。特に向上したのは、効果的に組み立てる力と表現の効果を考え記述する力である。

<構成の効果を考える力>

段落のまとまりを作り、全体を見通して組み立てるようにはなっているが、伝えたいことを表すために構成の効果を考えることはまだできない児童が多かった。

そこで、サンプル文や組み立てモデルの提示や色分けした取材カードの活用をした。例えば単元「図書館改造の提案書を書いて、アイデアを伝えよう」では、問題点、解決する方法、考えなどを区別して、分かりやすく組み立てることができた。

<効果的な表現を工夫する力>

組み立てはできているが、記述する際に、事実と意見を区別するなどの表現の工夫を考えながら記述することがまだ難しい状況であった。また、語彙力が不十分であった。

そこで、記述の段階で相互交流を位置付け、友達と読み合いアドバイスをし合うようにした。そのことにより、お互いの表現のよさに気付くことができ、よりよい表現にすることができた児童が多かった。

② 第6学年

総合的にどの項目も向上が見られた。特に向上したのは、効果的に組み立てる力と表現の効果を考え記述する力および、表現のよさについて助言をする力であった。

<構成の効果を考える力>

自分の意図をもち、自分の考えが明確に伝わるように組み立てたり、表現の効果を工夫したりすることはまだ不十分であった。

例えば、単元「おすすめの本の推薦文を書こう」では、構成シートに記述内容が見えるようにし、全体を

見通して効果的に組み立てることができるようにした。さらに、根拠の妥当性を話し合いアドバイスし合う活動を設定することで、児童は、適切な根拠を選び効果的に組み立てることができるようになった。

《効果的な表現の工夫をする力》

語彙力も不十分であったため、効果的な表現で表すことのできない児童が多かった。そこで、サンプル集などで多くの表現に触れ、自分の表現に生かすことができるようにしたことで、自分らしい効果的な表現で表すことができるようになった。

《表現のよさについて助言をする力》

読み手の立場で、観点を明確にして文章のよさを見つけたり、アドバイスを行ったりする力も、最終学年になって確実な力となった。交流の活動を学年の発達に応じて、継続的に取り組んできた成果だと考える。

6 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

本年度4つの着眼に基づいた研究仮説を立て、各学年ごとに研究に取り組んできた。

その結果を踏まえ、本論文では、特に顕著な特徴の見られた取材及び構成の段階について、高学年の代表的な事例を中心に詳述した。

主として着眼3及び着眼4に関することとして、次のような点が実証できたと考える。

取材に関しては、低学年の紹介文における「友だちのよさ」を聞き出すためのインタビュー形式による取材活動、中学年の声明文における自分の説明対象（食材）を決めるためのマッピング形式による取材活動、高学年の推薦文における「価値ある本」を選ぶため継続的な読書日記による取材活動など、それぞれの文種（題材）に応じた取材活動を行うことにより、児童は書くための具体的な内容を数多く得ることができた。また、いずれの場合も、取材カードや一次取材段階のデータに基づき、個々の状況を綿密に分析した上で個別の手だてを取るものの有効性も確認できた。

構成については、主に高学年の実践事例で述べたが、構成シートの活用や文種に応じた見直しの観点を明示することによる効果が認められた。

このように、年間指導計画を作成し指導の重点化を図るとともに、各学年間の系統を踏まえ児童の書く力の実態に即した指導を進めたことで、児童は着実に力を身に付けてきていると考える。昨年度より一層多様な文種に応じることができた点も成果であった。

その他の着眼点に関しては、以下の通りである。

○ 児童の生活や各教科等の学習とのつながりを考えた年間指導計画の作成【着眼1】

本年度は、新学習指導要領の全面実施にともない教科書も新版になった。その結果、年間指導計画も全面的な見直しを図ることとなった。その効果については、今後継続的に検証していくことになる。今後、さらに加除修正を加えて、よりよいものにしていく必要がある。

○ 取り上げる文種の特質の明確化と特質を踏まえた指導の工夫【着眼2】

資料13は、本年度、各学年で取り上げた文種と指導のポイントの一覧表（抜粋）である。（詳細は別添資料I参照）

<資料13> 言語活動（文種）別指導のポイント一覧（5・6年抜粋）

文種	学年	指導のポイント
9. 意見文	5年・6年	<構成>サンプル文，取材カード <交流>相互交流，アドバイスシート
10. 調査文	5年・6年	<取材>題材選定カード <構成>カードの活用，相互交流，取材カード <記述>サンプル文
11. 推薦文	6年	<構成>取材カードの活用，相互交流の設定 <記述>サンプル文

なお、「児童の変容」の項で述べた成果は、着眼1から着眼4までの手だてが複合的に連動して機能した結果であると考えており、個々の着眼に対する効果とは考えていない。

(2) 今後の課題

本年度の研究を踏まえ、今後、以下の点について、さらに検討していく必要があると考える。

- 「文種の特質」ということに対して、さらに理論的・実践的に分析し、研究を深めていくこと。
- 研究の成果をよりの確に分析するために、児童の変容をどのような方法で把握していくか、仮説検証の方法を改善すること。
- スキル面など日常の継続的な指導との連動性を図り、学習の効果を高めるため、組織的な研究体制・方法をさらに見直すこと。
- 個々の表現語彙や表現方法をさらに豊かにしていく必要がある。そのためには、様々なジャンルに関する日常の読書生活を耕していかなければならない。そのための方策を講じること。

II 本研究の成果と課題に関する再考察

今回、この論文において報告した内容は、学校の研究のまとめとして作成した研究紀要に掲載したものの中から、紙面の都合上、高学年の実践に絞って掲載している。従って、「6 研究の成果と今後の課題」の部分で述べられている低・中学年の部分については、本論文では触れていない。しかし、児童の資質・能力は、一つの学年だけで育成されるものではなく、それまで積み上げられてきた学習経験の上に築きあげられていくものである。そのような考えに立って、敢えて原文のまま記載している。そのため、記述されている内容が理解しづらい点については、ご容赦願いたい。

学校全体として、どのように段階的・系統的に資質・能力を育成しようとしているのかについては、別添資料Ⅰの「折尾西 言語活動別指導のポイント一覧」をご参照いただきたい。また、「教育計画一覧表」(年間の全教科等のカリキュラム)、『書くこと』に関する年間指導計画、「言語活動別指導のポイント」については、各学年別に作成していることをここで付記しておく。

「5 児童の変容」については、「各評価の観点別状況」として、6月時点から12月時点でどのように変化しているかを数値化して述べている。このことについては、本校で作成した別添資料Ⅱの『書くこと』に関する児童の実態分析の観点(第5・6学年)に基づいて数値化したものである。このマトリクスについても、(第1・2学年)(第3・4学年)版を別途作成して取り組んでいるが、ここでは省略する。

本論文の「研究の成果」として述べられている、「年間指導計画を作成し指導の重点化を図るとともに、各学年間の系統を踏まえ児童の書く力の実態に即した指導を進めたことで、児童は着実に力を身に付けてきている」点については、平成29年3月に告示された新学習指導要領においても、総則の「改訂の要点」で「カリキュラム・マネジメントの充実」が示されているところである。その中では「児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」²⁾が指摘されており、折尾西小学校の取組はこのことに対する一つのモデルを示しているものだと考える。

また、「国語科の改訂の趣旨及び要点」の中でも、「学習の系統性の重視」や「授業改善のための言語活動の創意工夫」³⁾が指摘されており、これらの点においても一つの具体的な方策を示したものとなっている。

このように、本論文で紹介した折尾西小学校の研究内容は、前回の学習指導要領の改訂を受けたものであったが、今回(平成29年)の学習指導要領改訂の趣旨にも対応している価値あるものであると捉える。

さらに、令和3年1月に公表された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～(答申)の中で示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためにも、折尾西小学校で取り組んだ個々の学習状況を的確に把握することは、もともと基盤となることである。

このような先行研究を踏まえながら、各学校において「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」がさらに進められることを期待する。

III 謝辞

本論文で紹介した研究は、北九州市立折尾西小学校で平成23年度に取り組まれたものである。本校は北九州市教育委員会「学校大好きオンリーワン事業」の研究指定委嘱を受けて、平成21年度から継続して国語科「書くこと」の領域の研究に取り組んできた。私は平成23・24年度の2年間、学校長としてこの本校に在籍した。研究主題の推進に当たっては、研究主任の岩倉智子指導教諭を中心とした主題推進部が日々協議を重ねながら、全教職員が一致協力して児童の資質・能力の向上を目指して取り組んだ。また、本論文で紹介した第6学年の実践は、岩倉智子指導教諭によるものである。ここに記して謝意を表する。

終わりに、本紀要に論文の投稿の機会を与えていただいた九州女子大学学長奥田俊博様、人間発達学科長蒲原路明様に心よりお礼申し上げます。

<引用文献>

- 1) 平成23年度研究紀要「研究主題 自分の考えを深め、適切に表現する力を育てる国語科学習指導」
北九州市立折尾西小学校 平成24年3月
- 2) 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 平成29年7月 東洋館出版社
- 3) 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編 平成29年7月 東洋館出版社

<参考文献>

- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成20年告示）平成20年3月 東京書籍
- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成20年告示）解説国語編 平成20年8月 東洋館出版社
- ・水戸部修治「言語活動の充実 その課題と対応」初等教育資料 平成23年6月号 P41 東洋館出版社
- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月 東洋館出版社
- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 令和3年3月

＜別添資料Ⅰ＞ 言語活動別指導のポイント一覧

折尾西 言語活動別指導のポイント一覧

文種	1年	2年	3年	4年	5年	6年	指導のポイント
1 物語文・詩・短歌・俳句			◎				低
							中 <取材>・・・マッピング・相互交流 <構成>・・・サンプル文・構成シート・相互交流
							高
2 記録文		◎					低 <取材>・・・五感カード <構成>・・・サンプル文
							中
							高
3 説明文		◎	◎	◎			低 <取材>・・・きらきらカード インタビュー <構成>・・・色別カード
							中 <取材>・・・取材カード・相互交流・取材計画シート・相互交流 <構成>・・・サンプル文・構成シート・相互交流・選択基準の提示サンプル・構成シート ・相互交流・新聞調べワークシート・割り付け構成シート <記述>・・・サンプル・相互交流
							高
4 紹介文		◎	◎				低 <取材>・・・かんじたカード・きらきらカードの活用・インタビュー <構成>・・・さく文シート・さく文カード・色別カード <交流>・・・こうりゅうタイム・こうりゅうシート <集材>・・・生活科だいすきファイル・みつけたよ・おもったよメモ・はっけんメモ
							中
							高
6：生活文		◎					低 <取材>・・・作品ファイル・写真 <構成>・・・こうりゅうシート <集材>・・・生活科お知らせカード・学習ファイル・一言日記
							中
							高
9：意見文					◎	◎	低
							中
							高 <構成>・・・サンプル文・取材カード <交流>・・・相互交流・アドバイスシート
10：報告文		◎	◎	◎	◎	◎	低 <取材>・・・はっけんメモ・かんじたカード <構成>・・・さく文シート・さく文カード <交流>・・・こうりゅうタイム・こうりゅうシート <集材>・・・だいすきファイル・みつけたよ・おもったよメモ
							中 <取材>・・・取材カード・相互交流・ワークシート <構成>・・・サンプル文・構成シート・相互交流 <記述>・・・サンプル・相互交流
							高 <取材>・・・題材選定カード <構成>・・・カードの活用・相互交流・取材カード <記述>・・・サンプル文
11：推薦文						◎	低
							中
							高 <構成>・・・取材カードの活用および相互交流の設定 <記述>・・・サンプル集

☆12文種 (1:物語文・詩・短歌・俳句 2:記録文 3:説明文 4:紹介文 5:手紙文 6:生活文 7:日記文 8:感想文 9:意見文 10:報告文 11:推薦文 12:随筆) の中で、本年度実践文種のみ記載

<別添資料Ⅱ> 「書くこと」に関する児童の実態分析の観点（第5・6学年）

「書くこと」に関する児童の実態分析の観点		(第5・6学年)		
観点と具体項目	A (3点)	B (2点)	C (1点)	
＜目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと＞ 題材選定				
①相手・目的・場面に関する意識	・「だれに書くか」「何のために書くか」を自分で設定できる。	・「だれに書くか」「何のために書くか」を選んで取りかかることができる。	・「だれに書くか」「何のために書くか」を設定するのにかなり支援を要する。	
②題材を限定し考えを焦点化する	・何を伝えるために書くかを明確にし、自分の考えをはっきりさせることができる。	・何を伝えるために書くかや自分の考えなどを大まかに決めることができる。	・何を伝えるために書くかや自分の考えなどを大まかに決めるのに、かなりの支援を要する。	
＜全体を見通して書く必要のある事柄を整理すること＞ 取材				
③経験したことや考えたことなどから全体を見通した取材をする	・目的や意図、書きたいことの中心を踏まえ、文章の全体を見通して取材に取りかかることができる。	・書きたいことの中心を決めある程度文章の全体を見通して取材に取りかかることができる。	・文章全体の構成や見通しがなく、取材に取りかかっている。	
④書く事柄の整理・取捨選択	・観点ごとに整理し、目的や意図に照らして、必要な事柄を適切に取捨選択できる。	・目的や意図に照らして、必要な事柄を取捨選択することができる。	・書く事柄の整理がつかず、不必要な事柄や関係のうすい事柄を選んでしまうことがある。	
＜自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること＞ 構成				
⑤段落の役割	・根拠、事象、具体例など段落の役割を考えて効果的に配置することができる。	・根拠、事象、具体例など段落の役割を考えて配置することができる。	・根拠、事象、具体例など段落の役割を理解するにはかなり支援を要する。	
⑥段落相互の関係を考えた構成	・文種に応じて論の進め方、段落の組み立て方を自分なりに工夫することができる。	・論の進め方、段落の組み立て方を自分なりに工夫することができる。	・段落相互のつながりの意識がうすく、自分の思いつくままに組み立てている。	
⑦自分の考えを明確にするための構成の工夫	・自分の考えが明確になるように筋道を立て、読み手を引きつけるための構成の工夫ができる。	・自分の考えが明確になるよう文章全体の効果を考えて組み立てることができる。	・自分の考えを述べるために、文章全体の効果を考えて組み立てるにはかなり支援を要する。	
＜自分の考えが伝わるように表現の効果を考えて書くこと＞ 記述				
⑧一つ一つの段落の記述	・文章全体における一つ一つの段落の役割をはっきりさせて、必要な事柄を落とさずに書くことができる。	・一つ一つの段落に書くべきことを意識し、必要な事柄を落とさずに書くことができる。	・一つ一つの段落に書くべきことがはっきりせず段落の役割が分かりにくい記述となっている。	
⑨段落と段落のつながりの明確さ	・指示語や接続語を適切に使って、段落と段落が論理的につながりながら記述されている。	・指示語や接続語を適切に使って、段落と段落のつながりが理解しやすい記述になっている。	・段落と段落のつながりがつかみにくい記述になっている。	
⑩事実と感想、意見などの区別	・事実と感想、意見などがきちんと書き分けられ、相互の関係をはっきりしている。	・事実と感想、意見などの書き分けの効果が分かり、区別して書くことができる。	・事実と感想、意見などが書き分けられずに混在している。	
⑪簡単に書いたり詳しく書いたりすること	・目的や意図、相手に応じて、簡単に書く部分と詳しく書く部分とを効果的に書き分けることができる。	・簡単に書く部分と詳しく書く部分との書き分けの効果が分かり区別して書くことができる。	・書き分けの効果が意識できず、どの段落も同じように書いている。	
⑫引用、図表、グラフなどの活用	・自分の考えが伝わるように適切に引用したり図表等を効果的に活用したりして書くことができる。	・自分の考えが伝わるように効果的に活用して書くことができる。	・引用、図表、グラフなどの効果的な活用に支援を要する。	
＜表現の効果などについて、確かめたり工夫したりすること＞ 推敲				
⑬文章の間違いを探すこと	・記述中、記述後、文章を読み返し、間違いを的確に正すことができる。	・記述中、記述後、文章を読み返し、間違いをいくつか見つけ直すことができる。	・記述中、記述後、文章を読み返すが、間違いを直すにはかなりの支援を要する。	
⑭文章のよさを見つけること	・自分の文章のよさを、取材・構成・記述などの観点から見つけ、指摘できる。	・自他の文章のよさをいくつかの観点から見つけ指摘できる。	・自他の文章のよさをいくつかの観点から見つけるのに、かなりの支援を要する。	
⑮自分の考えが伝わったかを振り返ること	・自分の考えを伝えるための表現の工夫が効果的だったか、複数の観点から自己評価できる。	・相互評価などを通して、自分の表現の工夫が効果的だったか振り返ることができる。	・自分の表現の工夫が効果的だったか、客観的に振り返るにはかなりの支援を要する。	
＜書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと＞ 交流				
⑯書く目的や意図に応じた表現について助言する。	・文種の目的・意図に応じた構成や表現になっているかどうかについて適切に助言ができる。	・目的・意図に応じた構成や表現になっているかどうかについて具体的に助言ができる。	・構成や意図を明確にとらえることができず、助言をするには、かなりの支援を要する。	
⑰文章の表現の仕方のよさを感じて助言する。	・文種の特性（よさ）を理解し、そのよさを感じて適切に助言ができる。	・文種の特性（よさ）を理解し、そのよさを感じて自分なりに助言ができる。	・文章のよさをとらえることが難しく助言するにはかなりの支援を要する。	

An investigation into Japanese language instruction to promote deep thinking and foster pupils' ability to express themselves in an appropriate manner

Language activities to enhance instruction and evaluation

Yasuaki KURAUCHI

Department of Education and Psychology, Faculty of Humanities, Kyushu Women's University

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi 807-8586, Japan

Abstract

While working at Orio Nishi Elementary school in 2011 and 2012, I was involved in research on "Japanese language instruction to promote deep thinking and foster pupils' abilities to express themselves in an appropriate manner." This research took into consideration the school's educational goals, the pupils themselves, and current issues in education.

The research focused primarily on the following four points:

(1) Annual syllabus planning, (2) Features of language activities, (3) Methods for promoting mutual deep thinking and appropriate writing skills, and (4) Integrated evaluation and instruction

As a result, by ascertaining the learning situation of each individual pupil and devising individual measures, we were able to find effective means of instruction in line with each of the points of focus mentioned above. Furthermore, we believe that this research will contribute to the improvement of classes to promote proactive and interactive deep learning, as outlined in the course of study provided by MEXT in March 2017.

Key words : Japanese language instruction, promote deep thinking, language activities